



花ごよみ

2018年
1月16日
175号

発行
公財) 東京動物園協会
井の頭自然文化園

冬芽

落葉樹は晩秋になると葉を落とし休眠状態で冬を過ごします。春に芽吹き、活動を開始するために準備されたのが冬芽です。冬芽は、葉、花、枝になる芽が小さくまとまったもので、寒さ対策、冬の乾燥から実を守るため、樹種によって多様な進化をとげてきました。一見地味で、どれも同じように見える冬芽ですが、冬芽の構造を知ることで、冬ならではの植物の楽しみ方ができます。ぜひ、園内でじっくり観察してみてください。



春に葉と花が同時に展開する
オオシマザクラ

冬芽のタイプ分け

冬芽の形状には、裸芽、鱗芽、隠芽という3つの種類があります。

冬芽は、葉になるもの、
花が咲くものなどがあります

裸芽

芽鱗*を持たない冬芽。



鱗芽

芽鱗*を持つ芽。

芽鱗の形や数は様々。カツラのように2枚で冬芽を包んでいるものから、10枚以上の芽鱗が幾重にも重なっているものもあります。



隠芽

葉痕やその付近の枝の中にあり外からは見えない冬芽。



芽を観察すると・・・

- 葉芽** 展開すると葉になる冬芽
- 花芽** 展開すると花、または花序になる冬芽
- 混芽** 展開すると花と葉になる冬芽



* 芽鱗……冬芽を保護するうろこ状のもの